

できちゃうセット

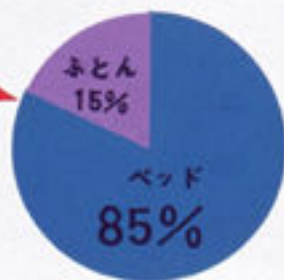
コンセプト

私たちは幼児（3～5歳）の生活において、体が小さいゆえに、様々な不便があることに気づいた。その中から私たちは、毎日欠かすことのできない「ふとんの出し入れ」を取り上げることにした。毎日使うふとんでありながら、大きい、重たいなどの理由で、ひとりで出し入れしている幼児は少ないのではないだろうか。そこで、幼児に、どんなことでも始めから終わりまで自分ひとりの力でできるという、大きな自信と喜びを持たせ、しかも、ふとんの出し入れを楽しいと感じさせて、毎日続けられるような幼児向け寝具を提案することにした。

ここに、実証を得るため、K幼稚園の先生がたの協力を得てその実体を調査した。

データ

Q1 あなたはふとんとベッドのどちらを使っていますか



Q3 それはなぜですか

- 大きいから
- 重たいから
- ふとんの敷きかたがむずかしいから など

ある家庭の幼児（5歳）がふとんの出し入れをしている様子



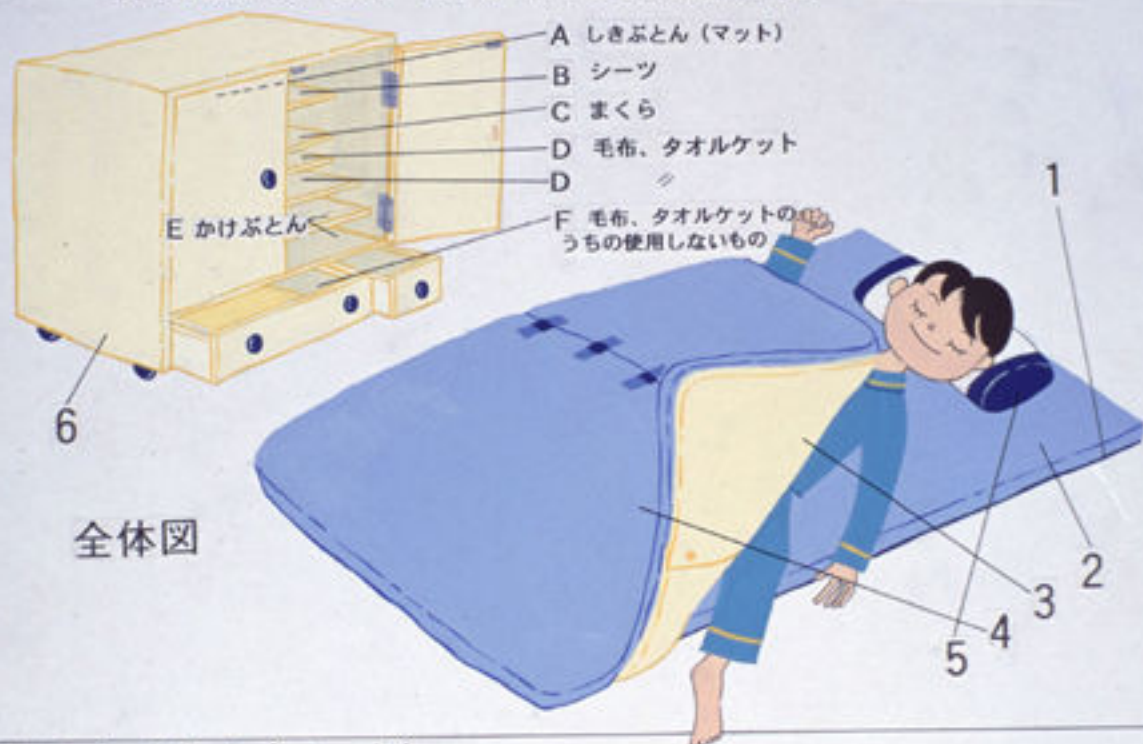
◀ しきふとんを敷くところ。重くてスムーズにいかない

◀ かけふとんにカバーをかぶせるところ。大きい上に難しくて、思うようにいかない



◀ ふとんをかたづけるところ。手が届かない

- 特長**
- 幼児がひとりでも出し入れできるように、しきぶとんは6つに、シーツ、毛布、タオルケットは2つにわけた。これで大きい、重たいという幼児の苦痛は解消できる。
 - 遊びを取り入れることによって、ふとんを敷く難しさをなくし、楽しめるようにした。
 - 幼児に、手先を使った色々な接続方法があることを理解させ、図柄を利用して楽しませる。図柄はすべて「眠る」「起きる」ということに関連させた。

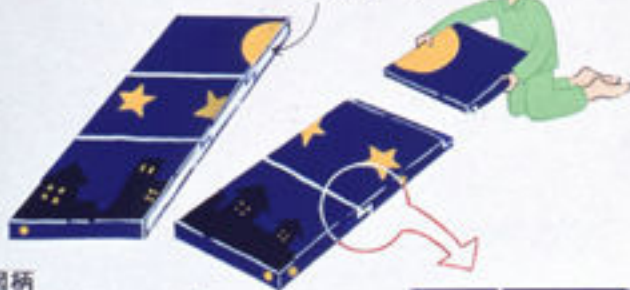


全体図

1 しきぶとん(マット) 6等分

接続:マジックテープ

マジックテープ



図柄

表



裏

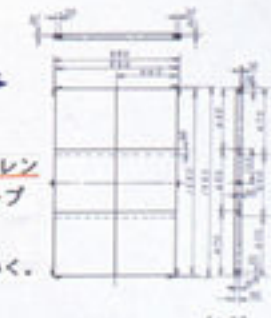


表裏両方使用できる

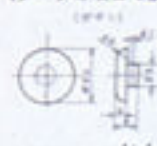


• aの黄緑色の部分とbのオレンジ色の部分がマジックテープとなっている。

• 凹凸を利用して接続していく。



(シーツの項目で説明)



組み立てかた (遊びかた)

図柄があり、パズルとして遊びながら組み立てる

片付けかた

バラバラにする → 収納ケースAへ

2 シーツ

接続: ボタン

組み立てかた (遊びかた)

しきぶとんに、黄色を基調としたボタンがついている。それを、シーツの端の模様と合うようにはめていく。

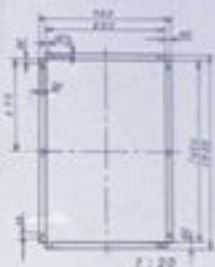
片付けかた

ボタンをはずし、4つにたたむ

→ 収納ケースBへ

ねらい

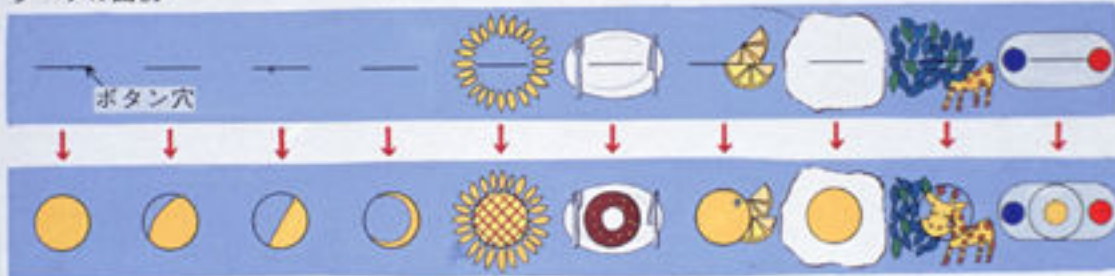
ア、ボタンの図柄にシーツの図柄を合わせて、月の「黄色」をテーマとした一つの図柄を完成させる。
イ、アを繰り返して、シーツをかけることになる。



ボタンの図柄



シーツの図柄



3 毛布、タオルケット 2等分

接続: スナップボタン

組み立てかた (遊びかた)

毛布 a の下方には朝の町の風景が、毛布 b の上方には夜の町の風景がかいてある。スナップボタンは黄色で星をあらわしており、スナップボタンをとめると夜に、はずすと朝になるというわけ。(生活習慣の理解)

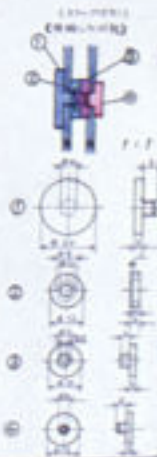
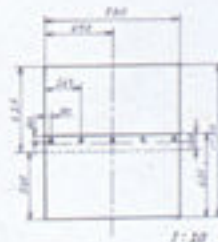
片付けかた

スナップボタンをはずし、2つにたたむ

→ 収納ケースDへ



図柄



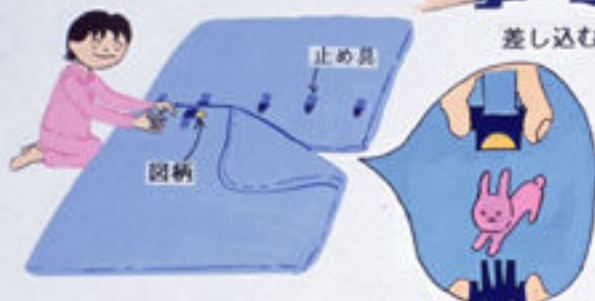
4 かけぶとん^{2等分}

接続：止め具

組み立てかた (遊びかた)

片付けかた 収納ケースEへ

4



差し込む



つまむ → ひく

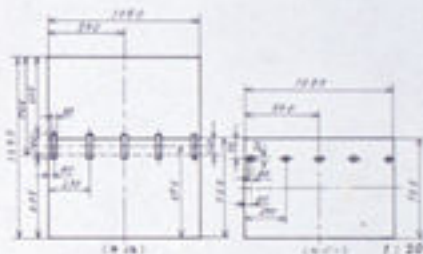
ねらい

「満月の形=まる」をテーマとして、まる(卵型含む)の中からでてくるものを連想させ、興味を持たせる。

止め具の
図柄



ふとんの図柄



5 まくら



マジックテープ

ウサギ

ソク

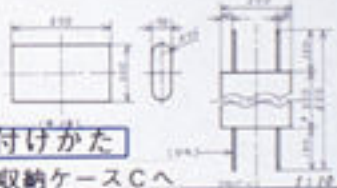


クマ

ぼうし

片付けかた

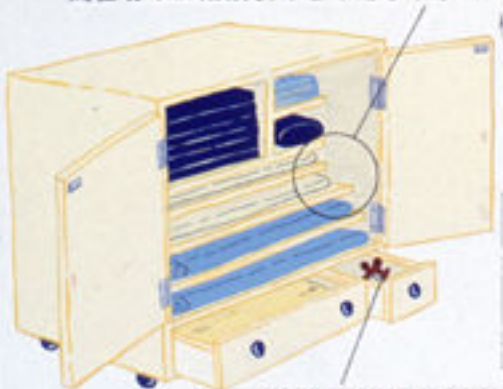
収納ケースCへ



6 収納ケース

手がらくに入るすき間

間仕切りが階段状でとりだしやすい



玩具、パジャマも入れられる
キャスター付きなので、らくに移動可能

